

市長公室

シビックプライド推進部

観	光	……	35														
シ	テ	ィ	プ	ロ	モ	ー	シ	ョ	ン	……	42						
広	聴	広	報	……	44												
オ	リ	ン	ピ	ッ	ク	・	パ	ラ	リ	ン	ピ	ッ	ク	推	進	……	47
東	京	事	務	所	……	48											

観 光

1 観光の概要

本市は、津久井郡4町との合併に伴い、旧相模原市の都市固有の景観やにぎわいなどを楽しむ「都市型観光」に加え、津久井地域の自然、歴史・文化、観光・レクリエーションなどの多様な地域資源を生かした新たな観光交流を創出することで、交流人口の拡大による地域の活性化を促し、魅力的な都市の形成を目指している。

(1) 第3次相模原市観光振興計画

幅広い多種多様な地域の人や組織と連携しながら、地域にある様々な資源を活用して誘客を図ることで、産業の発展、雇用の創出につなげるとともに、国内のみならず、いわゆるインバウンド効果を取り込みながら、海外も含めた交流人口を増やすことを目的として観光振興計画を策定し、推進している。

ア 観光振興計画策定の経過

策定・見直し年月	計画名称	回次
平成14年3月策定	相模原市観光振興計画	1次
平成20年3月策定 (平成26年3月中間見直し)	新相模原市観光振興計画	2次
令和2年3月策定	第3次相模原市観光振興計画	3次

イ 基本理念 「ひと・まち・自然・文化が奏でる観光交流都市 さがみはら」

～住んでよし、訪れてよしのさがみはらを目指して～

ウ 目指すべき将来像

- ① 国内外からの交流人口の増加に伴う、既存産業の発展や新たなビジネスチャンスの創出によって、地域経済の活性化が促進されている。
- ② 地域団体や住民、事業者などが自ら楽しみつつ、観光の担い手となって誘客・交流の取組に参画している。
- ③ 観光客との様々な交流によって、市民が自分たちの暮らす地域の魅力や価値に改めて気がつくことで、シビックプライドの醸成が図られている。

(2) 地域別観光振興計画

地域の観光振興団体が中心となって、地域資源を生かして、観光誘客を推進する地域別観光振興計画の策定及び推進を支援している。

計画名称	エリア名	策定期期	推進開始
小原宿活性化計画	陣馬・高尾山 相模湖	平成18年度	平成19年度
相模川エリア大島・向原・小倉・葉山島地域観光振興計画	相模川	平成22年度	平成23年度
青野原地域観光振興計画	道志川		
青根地域観光活性化計画	丹沢山塊	平成23年度	平成24年度
津久井中央地域観光振興計画	道志川		
相模湖湖畔地域観光振興計画	相模湖	平成24年度	平成25年度
津久井湖周辺地域観光振興計画	津久井湖城山		
城山湖周辺地域観光振興計画		平成25年度	平成26年度
藤野北部地域観光振興計画	陣馬・高尾山	平成25年度	平成26年度
藤野南部地域観光振興計画	牧野里山	平成26年度	平成27年度
藤野中部地域観光振興計画	相模湖	平成27年度	平成28年度

2 さがみはらのまつり

【潤水都市さがみはらフェスタ】

本市のシティプロモーションの推進を目的としたシンボルイベントとして、「はやぶさの故郷」をテーマに行っている。

【さがみはらスイーツフェスティバル】

スイーツを通じて相模原市の魅力を市内外に広く発信するとともに、新たな観光資源の開発を目的に行っている。

【相模原市民まつり】

(1) 相模原市民桜（若葉）まつり

昭和 49 年に市制施行 20 周年を記念し市民のふるさとづくりをテーマに、市役所前通りの桜並木を生かして始められた市民団体の参加を中心としたまつりで、毎年 4 月の上旬（若葉まつりの年は 5 月中旬）に、市民の手づくりによる催し物やパレードなどを 2 日間にわたり盛大に行っている。

(2) 城山もみじまつり

昭和 51 年に市民相互の協力により、ふれあいの場を創り上げ、郷土意識の高揚を図ることを目的として立ち上げたまつりで、ステージでの演奏や舞踊、模擬店、特産品の販売など盛り沢山の催しが行われている。

(3) 津久井やまびこ祭り

昭和 61 年に商工会青年部を中心に、地域のふれあいや、都市地域住民とのふれあいを深め、新たな産業の創出、また観光振興を図ることを目的として始められたまつりで、特産品展、フリーマーケットなどで賑わっている。

(4) 相模湖ふれあい広場

商工会青年部が、市民相互のふれあいの場を提供する目的で立ち上げたまつりで、ステージでの演奏や舞踊、模擬店、特産品の販売など盛り沢山の催しが行われている。

(5) 藤野ふる里まつり

昭和 58 年に善意と友情に基づき各種団体・行政が一体となって明るく楽しく開催することを目的として始められたまつりで、ステージでの演奏や舞踊、模擬店、特産品の販売などが行われている。

平成 20 年より「太陽の市場（ふじの産業まつり）」から「藤野ふる里まつり」に名称を改めた。

【観光行事】

(1) 泳げ鯉のぼり相模川

昭和 63 年に子どもたちのたくましく立派な成長を願い始められたまつりである。人と人の出会いとふれあいの場の提供と子どもたちに夢や思い出を与えるものとして、4 月 29 日から 5 月 5 日のゴールデンウィーク期間中に開催されている。相模川の清流と新緑の中、相模川に 4 本のワイヤーを渡し約 1,000 匹の鯉のぼりが群泳する姿は壮観である。（令和元年度をもって終了）

(2) 相模の大凧まつり

5 月 4、5 日に新磯地区で行われる江戸時代から続く伝統行事で、最大で一辺の長さ 8 間（約 14.5m）もある「相模の大凧」が春風に乗って大空に舞い上がる壮観さは、まさに日本一である。（昭和 52 年「かながわの民俗芸能 50 選」、昭和 57 年「かながわのまつり 50 選」、平成 3 年に関東の大凧揚げ習俗として、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」、また平成 22 年には「相模の大凧揚げ」として相模原市指定文化財に選定）

(3) 上溝夏祭り

上溝に江戸末期から伝わる伝統あるまつりで、7 月下旬の土・日曜日に開催されている。上溝商店街通りを中心に、御輿 17 基、山車 8 台が繰り出す勇壮なまつりである。（昭和 57 年「かながわのまつり 50 選」に選定）

(4) さがみ湖湖上祭花火大会

相模湖誕生後に始められた花火大会で、湖に関係して亡くなられた方々の慰霊と湖の安全を祈願し、8月1日に開催されている。打ち上げ数は約4,000発。周囲が山に囲まれているので、音が身体に響き、光は湖面に映え、素晴らしい音と光の芸術を繰り広げる。(昭和57年「かながわのまつり50選」に選定)

(5) 橋本七夕まつり

昭和27年に橋本地区商店街の活性化、振興を目指して始められたもので、8月上旬の金曜日から日曜日に橋本七夕通りを中心に色鮮やかな竹飾りが数多く並び、趣向を凝らした出し物が通りにあふれる華やかなまつりである。(昭和57年「かながわのまつり50選」に選定)

(6) 相模原納涼花火大会

昭和26年に「水郷田名」の復興を願って灯籠流しとともに花火が打ち上げられたのが始まりで、相模川高田橋上流の河畔で開催されている。スターマインなど約8,000発が夏の夜空を華麗に彩る。

【地域活性化イベント】

(1) 津久井湖さくらまつり

平成10年に水源地の環境保全や地域経済及びレクリエーションの振興を目的として始められたまつりである。4月上旬に桜の名所である県立津久井湖城山公園において、ステージイベント、特産品販売、フリーマーケットなどが開催される。

(2) 相模川芝ざくらまつり

平成16年に始められたまつりで、新磯地区の相模川河川敷を会場に4月上旬から中旬にかけて開催されている。この芝ざくらは、「新戸相模川芝ざくら保存会」・「相模川芝ざくら下磯部愛好会」が中心になり植栽したもので、約1.4kmにわたる植栽延長は日本一の規模である。

(3) 相模湖やまなみ祭

県立相模湖公園をPRし、公園に親しんでもらうことを目的に始められたまつりで、「環境にやさしい人・もの」「ふれあい・交流」をテーマに、音楽祭、フリーマーケット、流木チップの無料配布等を行っている。

(4) 相模湖ダム祭

森と湖に親しみ、心身をリフレッシュするとともに、神奈川県の水源の一つである相模湖の重要性についての理解を深めることを目的として始められた。発電所や相模ダムの見学などを行っている。

(5) 小倉橋灯ろう流し

かながわの景勝50選の小倉橋のもとで、様々な願いを込めた灯ろう約700個が相模川に流される。ライトアップで浮かび上がった美しいアーチ型の小倉橋とともに幻想的な雰囲気漂う。

(6) 東林間サマーわぁ！ニバル

平成4年に地域の振興と交流を目的に始められた阿波踊りを中心としたまつりで毎年8月に実施している。地元東林間の阿波踊り連はもとより、本場徳島や高円寺などからも参加があるほか、来場者も「にわか連」に参加できる。

(7) 城山夏まつり

毎年、8月の第4土曜日、日曜日に開催されている歴史と伝統の川尻八幡宮の夏祭りで、神輿や山車が地区内を練り歩く。「かながわのまつり50選」にも選ばれている。

(8) 相模原よさこいRANBU！

平成11年に始められたエネルギッシュなダンスイベントで毎年9月に実施している。よさこい踊りの伝統と個性的な創作ダンスの新鋭さが織り成すまつりで、古淵駅前通り周辺はリズムカルな音楽と表現豊かなチームダンスが醸し出す熱気であふれる。

(9) 甲州街道小原宿本陣祭

小原宿本陣は、県内で唯一現存する本陣であり、まつりを通して本陣とその時代を再認識し後世に引き継ぐこと、地域の活性化を図ることを目的に開催されている。甲州街道での大名行列のほか、本陣太鼓、大名茶会、ステージイベント、民具の展示などが多彩に展開されている。

(10) おおさわ桜まつり

平成 11 年に市民の文化向上と親睦を図るため始められたまつりで、大沢地区の桜の名所である相模川自然の村公園を会場に、毎年 4 月上旬に開催されている。芸能や模擬店、各種体験コーナーのほか、提灯が照らす美しい夜桜が楽しめる。

(11) 大野北銀河まつり

大野北地区を代表するイベントとして、地域のシンボルパークとも言える鹿沼公園において開催されている。音楽とダンス、地域で活動する各種団体の模擬店を楽しめる。

【観光宣伝行事】

(1) さがみはら菓子まつり

市内で製造販売されている和・洋菓子、パン菓子約 50 点、工芸菓子(菓子の材料で作った作品)約 10 点が展示される。また、菓子作りの実演や即売なども行われている。

(2) 相模原市菊花競技会

10 月下旬から 11 月中旬にかけて市立相模原麻溝公園を会場にして実施している。相模原親菊会の会員が心を込めて育てた、厚物、管物、三本立て盆栽や懸崖、小菊、福助づくりなど、色とりどりの大輪の菊が市民の目を楽しませる秋の風物詩である。

〔令和元年度 相模原市民まつり・観光行事・地域活性化イベント・観光宣伝行事〕

種別	名 称	開催時期	概 要
	さがみはらスイーツフェスティバル 2019「第3回推し土産スイーツ総選挙」	9月15日～10月14日 (投票期間) 11月15日(結果発表) 11月30日(表彰式・ 販売会)	投票、結果発表、販売会 表彰式・販売会会場：アリオ橋本グランドガーデン
	支えあおう！さがみはらフェスタ 2019	11月16・17日	会場：相模総合補給廠一部返還地 人出：21万人
市民 まつり	第46回相模原市民若葉まつり	5月11・12日	会場：市役所さくら通り 他 人出：40万人
	第43回城山もみじまつり		台風の影響により中止
	第34回津久井やまびこ祭り		台風の影響により中止
	第32回相模湖ふれあい広場 2019	10月6日	会場：県立相模湖公園 人出：3千人
	第12回藤野ふる里まつり		台風の影響により中止
観 光 行 事	第32回泳げ鯉のぼり相模川	4月29日～5月5日	会場：相模川 高田橋上流 人出：46万6千人(7日間)
	令和元年相模の大凧まつり	5月4・5日	会場：相模川新磯地区河川敷 人出：16万人
	令和元年上溝夏祭り	7月27・28日	会場：上溝商店街通り 他 人出：40万人
	第70回さがみ湖湖上祭花火大会	8月1日	会場：県立相模湖公園 人出：6万5千人
	第68回橋本七夕まつり	8月2日～4日	会場：橋本七夕通り 他 人出：36万3千人(3日間)
	第48回相模原納涼花火大会	7月15日	会場：相模川 高田橋上流 人出：19万人

地域活性化イベント	第22回津久井湖さくらまつり(花の苑地)	4月6・7日	会場：県立津久井湖城山公園(花の苑地) 人出：9千200人
	第22回津久井湖さくらまつり(水の苑地)	4月13・14日	会場：県立津久井湖城山公園(水の苑地) 人出：3万5千人
	第15回記念相模川芝ざくらまつり	4月1日～21日	会場：相模川新磯地区河川敷 人出：10万人(21日間)
	第22回相模湖やまなみ祭	4月29日	会場：県立相模湖公園 人出：1万2千人
	第26回相模湖ダム祭	7月15日	会場：相模ダム 相模発電所 他 人出：800人
	第20回小倉橋灯ろう流し		台風の影響により中止
	第28回東林間サマーわぁ！ニハシ	8月3・4日	会場：東林間駅前大通り 人出：14万人
	第12回城山夏まつり	8月24・25日	会場：川尻八幡宮周辺 人出：3万9千人
	第17回相模原よさこいRANBU!	9月15日	会場：市道古淵駅前通り、古淵西公園 他 人出：7万5千人
	第26回甲州街道小原宿本陣祭		台風の影響により中止
	第21回おおさわ桜まつり	4月6・7日	会場：相模川自然の村公園 人出：1万2千人
	第31回大野北銀河まつり	8月3・4日	会場：鹿沼公園 人出：19万人
観光宣伝行事	第35回さがみはら菓子まつり2019	10月19・20日	会場：イオン相模原ショッピングセンター
	第65回相模原市菊花競技会 表彰式：12月7日(市民会館)	10月27日～ 11月15日	会場：市立相模原麻溝公園 みどりの広場 出品数：250点

3 余暇施設等

(1) キャンプ場(2か所：上大島、望地弁天)

開設期間：3月1日から10月31日までと11月の土・日・祝日

(宿泊期間は7から8月までと9月の土・日・祝日の前日)

施設内容：テントサイト、炊事場、トイレ、駐車場

年度別利用状況

(単位：人)

キャンプ場別/年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
上大島	44,372	40,885	43,920	36,960
望地弁天	7,585	6,473	6,093	5,404
合計	51,957	47,358	50,013	42,364

(2) 相模川自然の村(清流の里)

豊かな自然環境の中で、市民がゆっくりとくつろげる宿泊施設として、平成8年4月20日に開設した。

施設内容：客室(10室・定員47名)、レストラン、大広間、会議室、カラオケルーム、娛樂室等

年度別利用状況

年 度	H28	H29	H30	R1
定員(人)	16,121	16,121	16,121	16,121
利用者数(人)	8,606	8,327	7,937	7,183
利用率(%)	53.4	51.7	49.2	44.6
稼働可能客室数(室)	3,430	3,430	3,430	3,430
客室稼働数(室)	2,866	2,828	2,761	2,483
客室稼働率(%)	83.6	82.4	80.5	72.4

(3) 相模の大風センター

江戸時代からの歴史を誇る相模の大風揚げ文化の保存・継承と郷土意識の醸成、凧づくりなどを通して世代間交流ができる施設として、平成 15 年 4 月 20 日に開館。「新磯子どもセンター」と高齢者の健康増進活動などを支援する「新磯ふれあいセンター」との複合施設（愛称：れんげの里あらいそ）である。

施設内容：展示ホール、工作室、ギャラリー

休館日：年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）ほか

年度別利用状況

（単位：人）

年 度	H28	H29	H30	R1
見学者数（大風センター）	5,281	5,823	8,595	7,178
工作室の利用者数	3,881	4,439	3,586	3,083

(4) 風と花の観光休憩所あらいそ

相模川に多くの観光客が安心して訪れることができる観光環境の向上を図る目的で、平成 23 年度の公衆トイレ、駐車場、休憩スペース設置に引き続き、平成 24 年度は倉庫兼作業所を設置した。

開場時間：3月から10月は午前7時から午後7時、11月から2月は午前7時から午後6時

休所日：なし

施設内容：駐車場7台（内大型観光バス2台）、公衆トイレ、休憩スペース、倉庫兼作業所

(5) 城山湖散策施設

城山湖を一周する散策路と、東屋などの休憩施設や駐車場、管理棟などが整備されている。

開場時間：午前9時から午後5時（冬季は午後4時まで）

休場日：なし

施設内容：散策路（約5km）、休憩所、野鳥観察棟、管理棟、トイレ、駐車場

年度別利用状況：令和元年度 34,500人（平成30年度 38,165人）

(6) 緑の休暇村センター

いやしの湯に隣接し、道志川沿いの豊かな自然環境の中で、宿泊や研修に利用でき、テニスも楽しめる施設である。

開設時間：午前9時から午後9時（宿泊の場合は、午後3時から翌日の午前10時まで）

（テニスコートは、午前9時から午後5時まで）

休館日：毎週火曜日（祝日・振替休日の場合は、その翌日）、12月28日から翌年1月4日まで

施設内容：宿泊室6室、食堂、コテージ3棟、テニスコート2面など

年度別利用状況：令和元年度 3,015人（平成30年度 3,201人）

(7) 青根緑の休暇村 いやしの湯

檜（ひのき）風呂、岩風呂や山々の緑を眺めながら、ゆったりと過ごせる露天風呂などを備えた施設である。

開設時間：午前10時から午後9時

休館日：毎週火曜日（祝日・振替休日の場合は、その翌日）、12月31日、1月1日

施設内容：大浴場、露天風呂、サウナ、休憩室など

年度別利用状況：令和元年度 82,719人（平成30年度 101,385人）

(8) 相模湖記念館

相模ダム建設事業の意義を次代に伝え、「水」・「電気」について体験して学ぶことのできる施設である。

開館時間：午前9時から午後5時

休館日：毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は、その翌日）、12月29日から翌年1月3日まで

施設内容：水・電気に関する説明と体験コーナー、写真展示（県立相模湖交流センターと併設）

年度別利用状況：令和元年度 8,022 人（平成 30 年度 11,155 人）

(9) 小原の郷

小原地域の優れた自然環境及び小原宿本陣に保管されていた古文書その他の文化財を生かした観光拠点として地域の活性化を図るとともに、市民の交流に寄与する施設である。

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

休館日：毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は、その翌日）、12 月 29 日から翌年 1 月 4 日まで

施設内容：多目的展示室、特別展示室、トイレ、テラス

年度別利用状況：令和元年度 7,558 人（平成 30 年度 9,876 人）

(10) 藤野やまなみ温泉

源泉かけ流し風呂、露天風呂などを備えた日帰り温泉施設である。

開設時間：午前 10 時から午後 9 時

休館日：毎週水曜日（祝日・振替休日の場合は、その翌日）

施設内容：内風呂、露天風呂、サウナ、休憩室、食堂など

年度別利用状況：令和元年度 100,579 人（平成 30 年度 118,351 人）

(11) 観光案内所

観光交流の玄関口として相模湖駅及び藤野駅に観光案内所を整備し、地域特性を生かした情報提供を推進している。

名称	愛称	開所日	年度別利用状況	
			H30	R1
相模湖観光案内所	—	平成 21 年 3 月 29 日	19,519 人	16,202
藤野観光案内所	ふじのね	平成 21 年 3 月 29 日	30,334 人	28,840

開所時間：午前 8 時 30 分から午後 5 時

休所日：年末年始（12 月 29 日から翌年 1 月 3 日）ほか

施設内容：観光案内ルーム（特産品の紹介・販売、パンフレット配布）、公衆トイレ（藤野のみ）など

4 水源地域交流の里づくり事業（上下流域自治体間交流事業）

やまなみ五湖の水を飲料水として利用している下流域の住民に、水源地域への理解を深めてもらうために上下流域の自治体が協力して事業を実施している。

〔令和元年度水源地域交流の里づくり事業（上下流域自治体間交流事業）〕

名称	開催時期	概要
中道志川あゆ釣り体験教室（座間市）	6月9日	会場：青野原オートキャンプ場 参加：17 人
川遊びと竹細工教室（伊勢原市）	8月1日	会場：沢井川、和田の里体験センター村の家 参加：28 人
城山発電所見学とコスモス花摘・押し花体験（伊勢原市）	10月2日	会場：城山発電所、小松地区 参加：22 人
相模ダム見学とカヌー教室（伊勢原市）	8月21日	会場：相模ダム、みの石滝キャンプ場 参加：28 人

5 その他

(1) 相模原市観光協会への支援

「新相模原市観光振興計画」に基づき「一般社団法人相模原市観光協会」へ支援を実施している。平成 30 年度は主に、5 年間（平成 30 年度～令和 4 年度）の事業方針を取りまとめた「（一社）観光協会 5 ヶ年計画」の着実な実施に向けて、必要な助言・指導及び支援を行った。

(2) 相模原フィルム・コミッション事業の推進

観光振興、地域振興及び地域経済の活性化を図るとともに、シティセールスを行うため、「相模原フィルム・コミッション」を設立し、国内外の映画、TV ドラマや CM 等のロケーション撮影や映像関連産業の誘

致支援活動を推進している。

[令和元年度主な実績]

■ドラマ■

- ・「インハンド」：相模女子大学
- ・「Heaven ご苦楽レストラン」：県立相模原公園
- ・「猫探偵の事件簿2」：川尻八幡宮、二本松商店街 ほか

(3) インバウンド（訪日外国人観光客）対応事業の推進

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における訪日観光需要の増加に対応するため、広域関東1都10県で取組む「広域観光周遊ルート形成事業」に参画し、八王子市をはじめとする近隣都市との連携を図り、ウェブサイトの構築やイベントプロモーションを実施した。

【観光・シティプロモーション課、緑区役所区政策課、緑区役所地域振興課、橋本まちづくりセンター、中央区役所地域振興課、南区役所地域振興課、城山まちづくりセンター、津久井まちづくりセンター、相模湖まちづくりセンター、藤野まちづくりセンター】

シティプロモーション

1 シティプロモーションの推進

「人や企業に選ばれる都市」を目指して、本市の魅力を経済的・効果的に発信し、認知度向上や定住促進を図るためのプロモーション事業を実施した。

(1) シビックプライド向上事業

市民の市への誇り及び愛着の醸成に関する事項や条例制定を見据えた検討や、さがみはらファンを増やすことを目的としたさがみはらファンサイトを創設した。

ア シビックプライドの推進に関する検討委員会

市民、学識経験者等により、市民の市への誇り及び愛着の醸成に関する事項について、市長の諮問に応じて調査審議し、答申を行うために設置（令和元年度：3回開催）

イ さがみはらファンサイト「Sagamihara FAN FUN FAN」の開設

本市の多彩な魅力を発信することにより、本市に共感する方々を増やし、市民の一体感と誇り、愛着を醸成することを目的とし、インターネット上の交流サイト「Sagamihara FAN FUN FAN」を開設した。

(2) 好意的認知度向上事業

本市にゆかりのある有名人を起用したプロモーションや、市マスコットキャラクターさがみんの活用などを通して、本市の好意的認知度の向上（市外）及び愛着の醸成（市内）を図るためのPRを実施した。

ア シティプロモーションブックの発行・PR動画の配信

本市にゆかりのあるメンバーをメインに構成されるバンド[Alexandros]を起用し、シティプロモーションブック・PR動画を作成し、市内外に広く発信した。

【冊子作成数】25,000冊 【動画視聴回数】40,554回（配信期間：1/27～4/24）

イ イベントへの参加（ブース出展など）

「若葉まつり」、「大相撲相模原場所」及び「やまなしリニアフェス2019」等へ参加した。

(3) 居注意欲喚起事業

ア 「Sagamihara Fan Fun Fan」の発行

まちの魅力や暮らしやすさを紹介するPR冊子「Sagamihara Fan Fun Fan Vol.3～ハシモト～」を発行した。作成した冊子は、市ホームページにデータを掲載し、同サイトの誘導広告をターゲット世代

の女性のスマートフォンで計 220 万回表示させた。

イ 「JOIN 移住・交流&地域おこしフェア 2020」への出展

都心部から移住を検討している方が集まる国内最大級のフェアに出展した。

(4) 企業向け PR 事業

業種や業態の垣根を超え、多種多様な技術やサービスが一堂に集結する「メッセナゴヤ」に出展し、リニア中央新幹線と圏央道が結節する唯一の都市である本市の立地優位性や将来性を中京圏の企業等に PR した。

(5) 職員向け情報発信力強化プロジェクト

職員一人一人が市の施策や PR を担っているという意識・姿勢の醸成を図り、組織全体の情報発信力を高めるため、外部の専門家による研修を実施した。

【開催日】令和 2 年 1 月 30 日（木） 【参加者数】87 人

(6) 民間企業等との連携による魅力発信・啓発事業

ア 住まい探しサイトでの本市 PR

住宅購入者または転居検討者に向けた情報発信を行うことで、本市のイメージ向上を図り、子育て世帯の転入・定住促進に繋げることを目的に、「子育て」と「スポーツ」をテーマとした相模原市の PR ページを制作し、不動産情報サイト「SUUMO」内で公開し、ターゲティング広告を配信した。

【PR ページアクセス数】5451 件（広告配信期間：令和元年 11 月～令和 2 年 1 月）

(7) SNS による情報発信

本市の魅力や話題をツイッター、フェイスブック及びインスタグラムを活用し情報発信した。

(8) 銀河連邦

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の研究施設が縁でユーモアとパロディの精神で組織された連邦国家（秋田県能代市・岩手県大船渡市・神奈川県相模原市・長野県佐久市・鹿児島県肝付町・北海道大樹町・宮城県角田市）が、共和国間相互で経済、教育、スポーツ、福祉等、多様な交流を通じ、友好の絆を深めた。

サガミハラ共和国の主な事業

(*)についてはまつり全体の参加者

事業名	実施日	場所	参加者数(人)
相模原市民若葉まつり 銀河連邦物産展・JAXA ブース	5月11日～12日	サガミハラ共和国 市体育館駐車場ほか	約 400,000 (*)
はやぶさの日イベント	6月9日	サガミハラ共和国 市立博物館	400
「はやぶさ2」リュウグウタッチダウンパブリックビューイング	7月11日	サガミハラ共和国 市立博物館	200
銀河カップ少年サッカー大会選手派遣	7月14日～15日	サク共和国	9
銀河連邦子ども留学交流参加者派遣	7月26日～28日	サク共和国	6
三陸・大船渡夏まつり特使派遣	8月 3日～4日	サンリクオオフナト共和国	4
大船渡ポートサイドマラソン大会選手派遣	9月1日	サンリクオオフナト共和国	2
JAXA 相模原キャンパス 30 周年記念式典	11月 1日	サガミハラ共和国 JAXA 相模原キャンパス	200
「JAXA 相模原キャンパス特別公開」 銀河連邦物産展	11月2日	サガミハラ共和国 JAXA 相模原キャンパス	10,365
支えあおう！さがみはらフェスタ 銀河連邦物産展・JAXA ブース	11月16日～17日	サガミハラ共和国 在日米陸軍相模総合補給廠一部返還地	約 210,000 (*)
障害者バスレクリエーションりんご狩り	11月 9日	サク共和国	77
うちのうら銀河マラソン大会選手派遣	11月24日	ウチノウラキモツキ共和国	2
第4回宇宙フェスタさがみはら	12月7日	サガミハラ共和国 市立博物館	延べ 821
佐久市民スケート大会兼銀河連邦星の町スピードスケート親善大会選手派遣	2月9日	サク共和国	19
銀河連邦フォーラム特使派遣	令和元年東日本台風により中止	サク共和国（予定）	0

広 聴 広 報

1 広報活動

(1) 文書などによる広報

ア 広報さがみはら

市からのお知らせ・情報等を市民に周知するため、月2回(1日、15日)、タブロイド版を発行し、新聞折り込みや、公共施設・鉄道駅・商業施設等における配架、ポスティングにより配布した。令和元年度は1回平均約19万8,700部発行

イ 声の広報さがみはら

視覚障害者などを対象に月2回発行し、希望者に郵送した。また、図書館等にも貸出用として配布した。CD、年24回、令和元年度は1回平均116枚発行

ウ 点字版広報さがみはら

視覚障害者などを対象に月2回発行し、希望者に郵送した。また、図書館等にも貸出用として配布した。B5版約120ページ、年24回、令和元年度は1回平均38部発行

エ ポケットデータさがみはら

統計数値を中心に、市の概要をコンパクトにまとめて発行した。年1回、9,000部発行

(2) 視聴覚広報

ア テレビ広報

(ア) 生放送番組/テレビ神奈川

番組名 「猫のひたいほどワイド」中の「猫ひたインフォ」

内 容 市のお知らせ、催し物などを紹介した。

放送日 第1・3水曜日、午後1時15分ごろに約3分間放送

(イ) 相模原市広報番組/ジェイコム湘南・神奈川

番組名 「ぞっこん!相模原」

内 容 市のおすすめスポットやイベントなどを紹介した。

放送日 毎週火・土曜日の午後8時、毎週水曜日の午後0時に5分間放送

(ウ) 相模原市特別番組/テレビ神奈川

番組名 「市長と語る 2020年のさがみはら」

内 容 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みなど、2020年の相模原市の施策や展望を、市長インタビューを軸に各種映像や写真を通じて紹介した。

放送日 令和2年1月1日(水・祝)午前11時~11時15分

番組名 「ニュースハーバー」中の「特集コーナー」

内 容 自転車ロードレーステストイベントや小学校のプログラミング教育について紹介した。

放送日 令和元年8月16日(金)、令和2年3月13日(金)

(エ) データ放送/テレビ神奈川

内 容 広報さがみはら掲載記事などを、テレビ神奈川のデータ放送画面で配信した。

放送日 原則、1日・15日に更新し、随時配信

(オ) 文字放送/ジェイコム湘南・神奈川

内 容 広報さがみはら掲載記事などを、J:COMのデータ放送画面で配信した。

放送日 原則、1日・15日に更新し、随時配信

イ ラジオ広報

エフエムさがみ

番組名 「相模原インフォメーション」

内 容 市の行事や催し物、市政案内などの地域に密着した行政情報を紹介した。

放送日 毎日3回、各5分間

ウ インターネット広報

市ホームページ管理システムの更新に併せて、平成30年1月にトップページ等をリニューアルした。

(ア) 市ホームページ

市民生活に関わる重要なお知らせを随時掲載したほか、市政情報を日々更新した。

市ホームページアクセス件数

(単位：件)

区分	平成30年度	令和元年度
トップページ	3,615,796	4,960,448
総ページ	25,951,185	32,718,408

(イ) マイ広報さがみはら

広報紙を記事ごとにデータ化し、スマートフォンアプリから閲覧できる「マイ広報さがみはら」の運用を平成29年4月1日から開始した。

アプリダウンロード件数

(単位：件)

区分	平成30年度	令和元年度
ダウンロード数	1,548	1,990

(ウ) さがみはらチャンネル (YouTube 動画配信)

動画共有サイト「YouTube」を活用して、相模原の魅力を紹介する動画等を配信した。

- ・ 令和元年度末掲載動画数 (累計) 804 本
- ・ 令和元年度末動画再生回数 (累計) 3,626,892 回

(エ) LINE 公式アカウント

防災情報、重要なお知らせ等を随時配信する市LINE公式アカウントの運用を令和2年3月から開始した。

- ・ 友だち登録人数 10,878 人 (令和2年4月末日現在)

(3) その他

ア 報道機関への情報提供

報道機関に市政情報を提供することにより、市政に対する理解を深めてもらうとともに、市のPRを図った。市長記者会見は、定例記者会見を12回、臨時記者会見を7回開催、記事提供は随時行った。令和元年度は、記事提供728件、結果283件が新聞紙上に掲載された。

イ 新聞広告

市政のPRを積極的に進めるため、日刊紙等の紙面に広告記事(市の催しの案内など)を掲載した。令和元年度は、計4紙に5回掲載した。

ウ 市民カメラマン

公募による市民カメラマン9名に依頼し、市ホームページ「季節のたより」に掲載する写真の撮影のほか、市民の目で捉えた相模原を記録写真として撮影してもらった。

エ きょうのニュース

各種日刊紙の相模原市関連記事を切り抜き、特別職、局部長及び所属長に「きょうのニュース」として紙ベースで提供した。他職員には庁内イントラネットに記事概要を記載した一覧表を掲載し周知した。

2 広聴活動

(1) まちかど市長室

市民参加のまちづくりを推進するため、幅広く市民と市長が市政について積極的に意見交換等を行い、今後の市政に反映させるために実施した。令和元年度は、「あなたの好きな『さがみはら』は？」(公募型、緑区・中央区2回、南区1回)、「子育て・子育て支援について」(訪問型、各区1回ずつ保育園やこどもセンター等を訪問)、「『未来の私たち・未来のさがみはら』について」(鶴の台小学校)を実施した。

(2) 市政モニター

市政についての意見・提案などを市民から計画的に収集し、施策の企画立案や行政効果の測定などに活用するため、昭和44年度から実施している。

令和元年度のモニターの内訳としては、インターネットコース41人、郵送コース86人の合計127人であった。

令和元年度は、①「本市のまつり・イベント」、②「防災意識」「LCA国際小学校北の丘センターの大規模改修」、③「政令指定都市移行10周年」をテーマにアンケートを実施した。

(3) ジュニア・市政モニター

次世代を担う子どもたちが市政に関心を持ち、新たな発想で市政に意見や提案を寄せてもらう機会をつくるため、平成26年度から実施している。

令和元年度はモニターが344人で、①「市の公共施設」「福祉の仕事のイメージ」、②「LCA国際小学校北の丘センターの大規模改修」をテーマにアンケートを実施した。

(4) 市政に関する世論調査

市民の意識や意向を的確に把握し、市政運営の有効な資料とするため実施した。

令和元年度は、専門の調査機関に委託し、郵送による配布・回収方式で行った。市民3,000人を対象に「市や区に対する愛着や定住意識」「相模原市の景観」「文化芸術の振興等」「地域福祉の推進」「応急手当の講習会」「自転車事故の備えた保険等の加入」「農産物の地産地消と農地の保全」「ICTの利用等」「市の公共施設」の9項目を調査し、回収率は、48.3%であった。

(5) わたしの提案

「心を大切にふれあいの市政」を推進するため、市民の意見や要望を、市政に反映させる「わたしの提案」制度を実施している。

令和元年度に寄せられた「わたしの提案」は1,948件であった。

(6) 陳情・要望等

各種団体や複数の市民からの陳情・要望等を「わたしの提案」同様に処理し、その結果を市政の運営に役立てた。令和元年度に寄せられた「陳情・要望等」は、684件であった。

(7) 相模原市コールセンター

市民サービスの向上を図るため、平日の開庁時間はもとより、休日や夜間の閉庁時間にも市民からの市政等に関する問合せや各種事業の申込受付を一元的に対応している。

コールセンターの概要

1	運営時間	午前8時から午後9時まで(年中無休)
2	電話番号等	電話 042-770-7777 ファクス 042-770-7766
3	サービスの範囲	主に市政等に関する問合せへの対応、各種事業の申込受付
4	運営方法	民間委託
5	FAQの整備	市民が24時間市政等の情報を得ることができるFAQ(よくある質問と回答)を整備

コールセンター利用実績

(平成31年4月～令和2年3月)

コールセンター 利用件数	合計	電話(応答)	電子メール	ファクス
	118,017	117,287	700	30

(8) AIスタッフ総合案内サービス

令和2年3月23日から、行政サービスの手続きや制度に関する問合せにAI(人工知能)が自動で回答する、AIスタッフ総合案内サービスを開始した。

・利用実績 質問数(ユーザーが質問した回数):1,970(令和2年3月末日現在)

(9) 市民通報アプリ「パッ！撮るん。」

スマートフォンが持つカメラやGPSの機能を利用し、市が管理する道路の破損状況等について市民が手軽に通報できるアプリケーションソフトを公募により市内の事業者と協働で開発し、平成27年4月1日から本格運用を開始した道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について、令和2年3月23日に公園、河川、下水道、放置自転車等を新たな通報範囲として拡大し、市民通報アプリ「パッ！撮るん。」としてリニューアルした。

通報実績

(令和2年3月23日～3月31日)

市民通報アプリ 通報件数	合計	道路	公園	河川	下水道	放置自転車等
	35	30	2	0	1	2

アプリダウンロード件数 (平成27年度～令和元年度累計)

区分	令和2年3月末時点
ダウンロード数	7,999

オリンピック・パラリンピック推進

1 東京2020・さがみはらプロジェクト推進本部

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、関係自治体等との連携や協力を更に進めるとともに、本市のスポーツ・文化の振興、魅力の発信等を通じて本市の発展を図るため、「東京2020・さがみはらプロジェクト推進本部(通称「さがプロ2020」)」において取組を進めた。

令和元年度においては、大会に向けた機運醸成のため、大会1年前イベントの開催、「支えあおう！さがみはらフェスタ2019」をはじめとするイベントへの「さがプロ2020ブース」の出展、オリンピック・パラリンピック教育、パラスポーツの普及啓発等に取り組んだ。

令和2年3月には新型コロナウイルス感染症の影響により、大会を1年間延期することが決定された。

2 自転車ロードレース競技の開催に向けた調整

平成30年8月に、自転車ロードレース競技のコースの一部が市内に設定された。公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や関係自治体等と連携し、競技の実施に向けた準備を着実に進めるとともに、広く市民に対し、競技の魅力や市内コースを紹介した。

令和元年度においては、7月21日にテストイベントが開催された。また、大会を契機としたレガシー創出につながる取組として、国際自転車ロードレース大会「ツアー・オブ・ジャパン」の誘致などを行い、3月25日にツアー・オブ・ジャパン組織委員会により、令和3年5月における相模原ステージの実施が公表された。

3 オリンピック聖火リレー、パラリンピック聖火フェスティバルの開催に向けた調整

オリンピック聖火リレーのセレブレーション会場として橋本公園が設定されたほか、市内ルートとして2区間が設定された。パラリンピック聖火フェスティバルでは、パラリンピック聖火の元となる火を採火する採火式を県内全市町村で実施することが決定した。開催に向けて、神奈川県等と連携し、準備を進めるとともに、広く市民に対し、市内ルート等をPRした。

4 外国選手団の事前キャンプ受入れをはじめとするホストタウン交流事業

市内での事前キャンプの実施が決定しているブラジル連邦共和国及びカナダのホストタウンとして、令和元年度においては、ブラジル代表競泳チーム及びカナダ代表ボートチームのテストキャンプを受け入れ、選手団

による小学校への訪問や練習見学会の開催などにより交流を図ったほか、市内在住の中学生をブラジルで開催されたスポーツ大会に派遣するなどホストタウン交流事業を実施した。

東京事務所

1 所在地と設置日

東京都千代田区平河町2丁目4番1号 日本都市センター会館12階（昭和63年4月1日設置）

2 中央省庁その他諸機関との連絡調整

本市行政の政策形成や施策の円滑な推進を図るため、中央各省庁その他機関への陳情・要望活動の支援等を行った。

要望活動件数 (単位:件)

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
要望活動	45	49	50

3 市政に関連のある情報、資料の収集及び提供

本市行政に必要な情報の収集、諸会議への出席、担当部署への情報提供等を行った。

- 令和元年度 収集した情報の件数 1,174件

担当部署へ提供した情報の省庁別内訳（内容が複数の省庁に関係する場合はそれぞれに計上）

関係省庁	件数	関係省庁	件数
総務省関係	101	内閣官房・内閣府関係	226
厚生労働省関係	365	文部科学省関係	117
経済産業省関係	63	環境省関係	24
国土交通省関係	77	その他	191
農林水産省関係	67	合計	1,231

- 令和元年度 資料収集等のための会議等出席件数 126件

4 本市施策の紹介、宣伝等広報事業の実施

本市における施策及び施設の紹介、イベントのPR等を行った。

- 令和元年度 広報紙等配布件数 延べ3,864件(国会議員、各東京事務所、省庁関係者)
- 都市PRコーナー（日本都市センター会館内）におけるポスターの掲示及びパンフレットの配架